

事業所の概要表

(2022年 2月 10日現在)

事業所名	グループホームじゃんけんぽん					
法人名	株式会社モロコケア					
所在地	愛媛県松山市古川北3丁目12番29号					
電話番号	089-969-0777					
FAX番号	089-969-0600					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1,2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	3 ユニット		利用定員数 27 人			
利用者人数	26 名 (男性 3 人 女性 23 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	5 名	要介護2	3 名
	要介護3	9 名	要介護4	4 名	要介護5	5 名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	5 人	3~5年未満	9 人
	5~10年未満	4 人	10年以上	5 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 4 人		介護福祉士 9 人			
	その他 (看護師、准看護師、介護職員初任者研修)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	高瀬内科胃腸科、はじめ歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 65 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,200 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円 (夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費	12,210 円
	・	円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 0 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 6 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でフラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年2月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	17	(依頼数)	27
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103177
事業所名	グループホームじゃんけんぽん
(ユニット名)	グーユニット
記入者(管理者)	
氏名	和田リツ子
自己評価作成日	2022年 2月 5日

【事業所理念】※事業所記入 一人ひとりが尊重され健康で安心と自由があり、お互いが支えあいながら明るく、情緒強い生活ができるやすらぎの家	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 重度の利用者が多く、外出による行事ごとへの参加が難しく買い物や気分転換の為にパチンコ付き添い支援もコロナウイルス感染拡大防止の為、支援ができなかった。その代わりにボランティアでのリモートのギター演奏の回数も増やしていただき、コスモスや桜を見にドライブに同行しました。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 職員が、紙芝居を読んだり、ギターやオカリナを演奏して利用者と一緒に歌ったりするような場面をつくっている。年間を通じて、季節行事と行事に沿った食事で楽しめるよう取り組んでいる。いつも振りした際にはいもづつを利用してクリスマスリースをつくった。綾小路きみまろライブの動画をみて笑ったり、カラオケで歌ったりして気分転換する機会をつくっている。写経する人や俳句をつくる人、それぞれに応じて支援している。ペランダで職員と一緒に洗濯物を干したり、車いすの人は膝の上に集めてタオルをたたんだりして役割を持って過ごしている。 事業所で使用する米は、地域の人から購入している。ちらし寿司をつくる時(10日に一回程度)には、東・西のお宅にもおすそ分けすることを長い間続けており、なじみの関係ができている。
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族	地域	外部	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
						評価	評価	評価	
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	住み慣れた地域での暮らしはどうだったのかを参考にしながら取り組んでいる。	○		○	利用者が喜んだことなどがあれば、申し送り共有したり、ユニット会(ケアカンファレンス含む)時に情報を持ち寄り話し合ったりして把握に取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人が安心できるよう傾聴することで会話を引き出している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家庭訪問時、聞き取りしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の言葉を記録に残している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	利用者の行動には必ず理由があることを頭に入れていく。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	常にスタッフと話し合い、家族からも聞き取りをしている。			△	利用者や家族から、生活歴などを聞いているが、情報は口頭でやりとりすることとどまっている。以前に利用していた介護事業所やケアマネジャーから、生活歴や生活環境などについての情報提供がある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	その日の状態を把握し申し送りしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	スタッフ間で話し合い不安にならないように努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	環境を整えたり、傾聴することで把握できている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一人一人の生活のリズムを把握し対応している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	人の動きに寄り添い話し合っている。			△	サービス担当者会議時は、職員の気づきなどを出し合い検討している。利用者がその場に出席するようなケースもある。さらに、「その人らしい暮らしを支える」という観点から取り組みをすすめてほしい、本人の視点で検討するための、もととなる情報を明確にしてはどうか。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ユニット会でカンファレンスをしている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	計画書の見直しを行っている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	支援内容が本人に沿っているか話し合っている。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人のレベルに合わせて安心して暮らせるように作成している。	○		○	家族、利用者の意向を踏まえてサービス担当者会議で話し合った内容をもとに、計画作成担当者が介護計画を作成している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	変化が見られた時には時は家族を交えて話し合っている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ渦の中、協力体制が出来ていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎月カンファレンスしている。			○	介護計画書を個人ファイルにとじて共有している。新たに計画を作成した際には、ユニット会で計画の支援ポイントを具体的に話し合い、ケア行動計画チェック表の項目を作成している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月ユニット会でモニタリングしている。			○	ケア行動計画チェック表の項目に沿って、毎日、実践できたかを○と△で記入している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	◎	介護記録は正確に記録している。			△	介護記録に記入することになっているが、介護計画に基づいたという点からは、記録量が少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の状況を把握し気づいたことは記録している。			○	ユニット会時に情報を出し合い記録している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	状況に変化があれば見直ししている。			◎	ケア行動計画チェック表に、期間を明示しており、計画作成担当者が責任を持って6ヶ月毎に見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会で確認している。			◎	月1回、ケア行動計画チェック表等をもとにして、ユニット会時に、全利用者について現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	変化があれば見直ししている。			○	退院後など、身体状態に変化があれば見直しを行っている。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	チームで話し合いをしている。			○	月1回、各ユニットでユニット会を行い、議事録を作成している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	みんなで意見を出し合っている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全員が参加できる日を決めている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議内容を書面にして回覧している。			◎	参加・不参加に関わらず、全員が議事録を確認して、サインをするしくみをつくっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用している。			◎	家族からの伝言や業務連絡などの情報は、申し送りノートに記入し、サインをするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートに記入し、さらに全員に伝えるまで口頭で伝える。		○			
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者と一緒に話し合っている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定ができるような環境づくりをしている。			評価困難		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人に寄り添った支援ができています。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースに合わせた支援を心掛けている。					
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	バリデーション技術を活用している。			○		職員が、紙芝居を読んだり、ギターやオカリナを演奏して利用者と一緒に歌ったりするような場面をつくっている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	顔の表情と全身状態をチェックしている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	利用者様のプライバシーを大切にすることに意識している。	◎	◎	○	オンラインの外部研修などに積極的に参加しており、受講した職員がユニット会時に伝達している。この一年間では、看とり支援についての研修を受講して尊厳について学んでいる。各ユニットのリーダーは、利用者の呼び方や「温和な声かけや態度」を実践して、職員の手本となるよう取り組んでいる。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	一人一人に敬意を払った対応をしている。			評価困難		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排便時はドアの外で待機している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	部屋に入るときはノックをして入っている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解し守っている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	手伝ってもらった時は感謝の言葉を伝えていく。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	生き生きと過ごせるよう一緒に関わっている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者につまづき力発揮してもらった場面をつくる等)	◎	席の配置に気を付けて孤立しないように対応している。			評価困難		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになりそうときは間に入り気分を変えている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所前の面談時や入所時、入所してからも本人からの聞き取りをし情報を得ている。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	余暇を利用し、本人との会話の中で聞き取ることができている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	現状コロナ拡大により出かけることはできていない。1名は携帯で友人に連絡している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	現在はリモート面会のみとなっている。以前面会時は一緒に過ごせる環境を作っていた。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	気分転換も含め施設周辺の散歩にすつらを出掛けている。	△	○	△	この一年間では、感染対策を徹底して桜やコスモスを見に出かけている。 日常の中では、中庭の植物をみて過ごしたり、菜園でも掘りまいたり、ベランダに出て洗濯物を干したり、お茶の時間を持ちたりしている。 リクライニング車いすの利用者もベランダに出てひなたぼっこして過ごせるよう支援しているが、機会は少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在コロナ拡大により他者との関わりを持つ事が出来ない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	現在出来ていないが、暖かくなれば車椅子移乗し日光浴をする。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在出来ていないが家族の希望時(以前は)行っていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	不穏症状出現時、スタッフ間で統一した対応をするよう話し合いをし、その利用者にあった支援をしている。				毎日ラジオ体操を行っており、外出ができない状況になってからは、屈伸運動なども追加して行えるよう支援している。 オンライン体操レクリエーションを採り入れて、利用者も体を動かす機会をつくっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	異常時NSとの連携を図り、自主訓練を取り入れた李、食事摂取状況の観察を行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	ギリギリまで見守りをし迷いや行動が危険と思われるときは声かけや誘導をする。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	自分の洗濯物を畳んだり、台拭き等できることをしていただく。本人から「でしょうか？」等の発言あり。				年間を通じて、季節行事と行事に沿った食事で楽しめるよう取り組んでいる。おもてなしした際にはおもてなしを利用したクリスマスリースをつくった。 線小路きままるライブの動画をみて笑ったり、カラオケで歌ったりして気分転換する機会をつくっている。 写経する人や俳句をつくる人、それぞれに応じて支援している。 ベランダで職員と一緒に洗濯物を干したり、車いすの人は膝の上に乗せてタオルをたたんだりして役割を持って過ごしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	日より出来る時、出来ない時あるが役割を与え、感謝を伝えるようにしている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	現在出来ていないが、施設内で野菜を作り、芋ほり等に参加していただく。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	整容時の声かけを行ったり入浴後の服装を本人に決めていただいたりする。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 新型コロナウイルス感染症対策期間中も、感染防止対策を徹底して月に1度は、訪問美容師の利用ができるよう支援した。カット、毛染め、パーマなど、利用者の希望に沿って行ってもらっている。入浴後にドライヤーをかける時には、職員がブローして本人が嬉しい気持ちになるような支援にも配慮している。 衣服については、家族が用意したものを着て過ごしているが、場合によっては、誕生日プレゼントに職員が洋服を選んで事業所からプレゼントしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	自分で行える利用者様には声かけで行っていたい。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	着衣をスタッフが準備する等し、更衣の見守りをし、出来ているか確認を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家庭生活で来ていたものを施設内でも身に付けている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	着衣の乱れ等さりげなく直したり、食後の口腔ケアの声かけを行う。	○		◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問で行っている。訪問日が決定していれば本人の希望を聞く。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	常に整った清潔な状態が保てるように心がけている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	もりつけ等に工夫したり、器を変えたりし、見た目こだわっている。				献立は、利用者には「何が食べたい？」と聞きながら、各ユニットで2週間ごと順番に作成している。利用者からは寿司の希望が多く、10日に1回はちらし寿司を採り入れている。 肉、卵、味噌、醤油などは、各業者に注文して配達してもらっている。その他の食材は職員が買い物に行っている。 利用者が拭き拭きをしたり、じゃがいも、筍、豆の皮むきなどを行う場面をつくっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	タンパク質を多く含んだ食材選びをしている。危険なく行えることをしていただいている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	危険なく行えることはお手伝いして頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時にアレルギーの確認を行い理解している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	スタッフが休みの日に旬の食材を採りに行き利用者様に下さらえていただくことあり。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	体調が悪い時はおかゆにしたり、嚥下や咀嚼が困難な時はきざみにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	施設内で用意されたものを本人用とし、同じテーブルの同性の方の器は同じ柄のものを使用			評価困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	x	食事介助を要する利用者が多く、一緒に食べることは困難である。			評価困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事に集中できる環境づくりをする。		◎	評価困難	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事摂取量、水分量をチェックしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	毎食時のお茶、2回目のコーヒーやジュースの提供。入浴時の水分補給。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立表のチェックは行っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	夜勤者による冷蔵庫内の掃除をし、古い食材が残っていないようにしている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修を受けたり、寝たきりの利用者に対しての口腔ケアをしっかりと実施している。				毎月、訪問歯科医の検診を受けて口腔内の健康状態について管理しており、歯科医の指導を得て日々の口腔ケアを行っている。食前の口腔体操を採り入れている。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期歴に歯科検診を受け、口腔ケアの指導を受けている。受診後の報告を受けている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯ブラシや歯間ブラシの購入をし実際に使用し口腔ケアを行っている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	本人が洗浄した義歯のチェックを行ったり、ポリデント洗浄を行っている。				
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	義歯がきれいに洗えているかの確認は行っている。スタッフの前でも義歯を外したくない人がいる。			評価困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	定期的に歯科往診を受けている。異常時はDrに伝え診てもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	紙パンツ対応の利用者様3名、布パンツ対応とトイレを促している。				申し送りやユニット会時に話し合いながら支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排便コントロールがうまくできるようDrに相談しながら服装、運動、食物に配慮している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々に把握し対応できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	モニタリング、朝の申し送りにて検討、共有して行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	運動、食物には配慮し改善している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	早めのトイレ声かけを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	排泄パターンを把握し、そのたびパッドを考え、失禁のないよう取り組んでいる。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	皮膚の状態を把握し、通気の良い素材を考えている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	日課に屈伸、ラジオ体操、歩行訓練を個別に取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	気温、体調面考え、時間帯を配慮し、浴槽への時間を気を付けている。	◎		○	週2回、午前中に入浴を支援している。職員は、利用者の体調や湯温等の好みに合わせて準備している。入浴剤を入れたり、中庭で採れたゆずを湯船に浮かべて楽しんでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	本人の好みの話題を提供し、楽しく入浴できている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来るところはご自分で洗っていただきゆったりと入浴できている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いないで気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	時間をずらしたり、お好きな話、飲み物を飲み、気持ちよく入浴できている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを必ず実施している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	其々の就寝時間を把握でき、声かけをしている。				薬剤を使用する利用者については、本人の状況を医師に報告して相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の運動(活動)を増やし、安眠できるようにしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中出来るだけ運動を促したり、活動を多く取り入れている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼食後には居室で急速をとっていただいている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている方もいる。そのほか、お手紙を出されている方もいる。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	リモート面会で本人とお話する機会がある。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人の話したいときにお電話している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	そのたびお見せし、お礼は毎月のお手紙でスタッフからお礼をしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	心配事等が起きた時は連絡を取り合ったり、様子を毎月のお手紙でお知らせしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	本人は現金は所持していない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナ以前は買い物に出かけていた。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナにつき、外出はしているが希望があればスタッフ、家族様が購入している。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	△	お金の支払いを毎月心配される方には、その都度支払い方法を説明している				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	本人のお金を預かり家族に相談してから利用している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	お小遣いをお預かりし毎月報告している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人、ご家族と連絡を密にし、支援に生かしている。	◎		○	新聞に俳句を投稿する利用者や友人と文通する利用者には、継続できるように投函などしてサポートしている。生協のカatalogをみて個人で注文する人をサポートしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	季節感が味わえる植下、置物、貼絵をしている。	◎	◎	◎	玄関先には、いろいろな種類の植物を育て緑の多い空間をつくっている。各所に花を飾ったり、観葉植物を置いたりしている。掃除が行き届いている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない暖風な共用空間等、家庭的な雰囲気をそっくり再現しているかな等。)	◎	毎月、月行事に合わせて置き換えている。	○	◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	度、換気をしている。消臭剤、個室、トイレ等に設置している。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	貼絵、月カレンダーで季節を感じていただく。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	同テーブルで楽しく1日過ごされている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンで見えないようにし、トイレ・浴室の戸をしまって直接は見えないようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	仏壇やご家族の写真を置いている。	◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	個々に出来ること、好きなこと生活歴を把握している。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	本人様の思いに傾聴し、不安を取り除いている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほろつき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌、歌集を見れるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関、出入口の施錠せず、利用者の行動は見守っている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけず支援することが当たり前と認識しており、日中、玄関、ユニット入り口は施錠していない。身体拘束については3ヶ月に一回の内部研修時に勉強をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関、開放している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関、居室をオープンにしている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	出来ている。すぐに見れるように月報に取り付けている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々観察し、変化があれば皆で共有し話し合っている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	ホーム看護師に相談し、迅速に対応できている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時から本人・家族の希望にて受診できるように支援している。	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族さまの希望に沿って支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	看護師や介護支援専門員が主となり、その都度家族に伝え対応支援している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	生活歴や細かな情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	主治医の協力のもと情報支援や相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	常に介護支援専門員が病院関係者との関係づくりを行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気づきや問題点等を管理者や看護師と相談し、話し合いをしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	急遽、気づきなどがあれば主治医や看護師に連絡をし、常に24H連絡がとれる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	体調の変化があれば看護師に報告、連絡、相談をしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋、薬剤情報をみて理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	個人個人の容器に保管している。食事に付き添って確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	利用者の体調変化がないか常に確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態の変化や様子などを記録している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時状態変化の経過ごとに家族等と連絡、面談をし、意向の確認をしながら方針を共有している。				入居時、家族に、終末期の支援についての事前確認書や緊急対応同意書で意向を確認している。その後、状態変化時に、再度、家族に意向を確認し、主治医、家族、職員で話し合い方針を共有している。新型コロナウイルス感染症対策期間の看とり支援は、家族も感染対策を徹底してもらい、一緒に支援を行えるよう取り組んだ。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	話し合った方針は関係者全員で共有している。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	主治医と連携しどこまで支援ができるか見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族等に対応の方針を十分に話し合い理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や主治医と連携を図りながら支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族間の事情を配慮し、少しでも不安を取り除くようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会として対応できるように学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	スタッフ全員が対応できるように常に体制を整えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新情報を入手し、感染対策している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	ニュース、インターネット等で情報収集し、随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなどが徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	スタッフ全員また来訪者には手洗い、アルコール消毒、マスク着用を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族と連絡を取りながら、一緒に本人を支えていける関係を築いている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 必要時に電話で報告したり、毎月の書類送付時に、担当職員からの手紙(本人の状況について)を同封して報告したりしている。 2ヶ月に1回、「たよりじゃんけんぼん」を発行し、行事などの様子を報告している。また、令和2年2月より、ブログを開設して、2ヶ月に一度程度、行事の様子などを載せている。 消防点検や電気機器点検、職員研修などの状況は、「たよりじゃんけんぼん」に載せている。 職員の入退職についての報告は行っていない。 現在は、電話連絡など、家族とやりとりをする中で関係づくりに取り組みながら、意見や希望を聞くことに取り組んでいる。オンライン面会、また、ドア越し面会等、その時期に応じて、面会の方法を検討して支援している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	スタッフ全員は明るい態度で接する。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	現在はコロナウイルス感染拡大防止のため活動を自粛して頂いている。	○		評価困難	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月担当者がお便りて現状をお伝えしている。	◎	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話連絡で報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症への理解への説明や働きかけの支援を行っている。				
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	いろいろな出来度とはその都度報告し、理解・協力を得ている。	△		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在はコロナウイルス感染症拡大防止のため、提供を中止している。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについてはケアマネ、管理者、看護師から家族へ連絡説明をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	日頃から日常の生活や意見・希望など連絡を取り合っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度説明をし近しいしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	理解、納得していただけるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書で説明し同意を得ている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	一部ではあるが、理解を得ている。			○	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	今はコロナウイルス感染症拡大防止のため参加を中止している。		△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	今はリモートで歌、ギター、オカリナ演奏で支援して頂いている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	現在はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止している。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りあそぶなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近隣の人とマスク越しに今は挨拶を交わすだけにしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	リモートでギター演奏依頼を働きかけている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	情報を収集し、地域資源を利用できるよう心がけていきたい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができよう。日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域のパン屋さんとの関係になっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	x	コロナ渦の中毎回利用者や家族、地域の人の参加は難しく参加はない。	△		△	地域の人、地域包括支援センター、市の担当者の参加を得ている。この一年間では、会議を文書開催で行うことが多かったが、時期をみながら集まる会議(7月、11月)を行った。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	自己評価、外部評価の内容、目標が達成できるよう少しずつではあるが、組んでいる。			○	利用者や活動について報告を行っている。会議の中で職員が講師となり、学習会を行っている。外部評価実施後のみ評価結果について報告を行った。昨年の自己評価実施後には、報告は行っていない。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出された意見や提案等を日々取り組んでいる。			◎	○	メンバーからの意見等も踏まえて、感染症対策についての研修受講を積極的に行っている。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	出席しやすい日程や時間帯について配慮している。また時間変更がある時は速やかに連絡をとっている。			◎	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	公表している。					
IVより良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員が見えるところへ施設の理念を張り、日常的に取り組むように努めている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	あまり理念をわかりやすく伝えていない。	○	△			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	計画的に法人関係の研修が受けられるよう取り組んでいる。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	リモート研修やいろいろな研修に参加し職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	自己評価や個々の努力、勤務状況を把握し、向上心を持って働けるように努めている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	相互研修などを通して、交流する機会を確保し、ネットワークづくりをしている。					職員は、定期的なストレスチェックを行っている。結果は個々に届くようになっている。休憩時間を確保しており、休憩室でゆっくりできるような空間をつくっている。
e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	スタッフルームにソファを置き、体を休ませたり、喫煙場所を作ったりして工夫している。	○	○	○	○	代表代理や事務長はユニットをまわって職員の声を聞くような機会を持っている。		
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	すべての職員が研修で学び虐待や不適切なケアに当たるケアはどのような行動かを理解している。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングや申し送り時、職員とともに日々のケアについて話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日頃から注意を払い発見した場合の対応方法を理解している。					職員は、外部研修時に勉強をしたり、3ヶ月に1回、虐待や身体拘束についての内部研修で勉強したりしている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	各ユニットをまわり、職員とのコミュニケーションをとっている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修会に参加したり、ネットなどで検索したり、その都度話し合っている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	ユニット会で話し合う機会を作っている。					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族様と納得し、理解していただけるよう話し合いを重ねている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	ユニット会で勉強したり、ネットで検索したりして、違いや利点などを理解している。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば、情報提供し支援を行っている。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	連携体制を築いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	看護師や職員に訓練を受けてもらい応急手当など訓練している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書はもとより、ヒヤリハットを書き、職員間で話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	職員全員が情報を共有し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを作成し理解している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	今のところ苦情は寄せられてはいないが、寄せられた場合は速やかに手順に沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	速やかに回答できるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	コミュニケーションをとり、意見や要望、苦情を伝える機会を作っている。			○	日々の中で聞いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	今は家族会議はできていないが小遣いを持ってこられた時やリモート面談時意見や要望などの聞き取りをしている。	○		○	「ひ孫と会わせたい」等、家族からの要望があれば、面談制限がある時期でも可能な方法を模索、検討して、実現に向けて支援している。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	利用者・家族等へ情報提供を適宜行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	ユニットにまわり直接職員の意見や要望、提案等を聞く機会を作っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	意見や提案等を聴き、支援を行うための運営について検討している。			◎	職員の意見や提案を聞く窓口となる職員(チャキユニットリーダー)を決めて取り組んでいる。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	意識の統一や学習の機会として活用している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成ができるよう事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告はしている。	△	○	△	外部評価実施後のみ評価結果について報告を行った。昨年の自己評価実施後には、報告は行っていない。モニターをしてもらい取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成が出来るよう事業所全体で取り組んでいる。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、訓練を行っている。				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	さまざまな時間帯を想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備や避難経路、非常用食料を置いてあり、定期的に点検をしている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署や地域住民との連携を図り、合同訓練に参加し協力、支援体制を確保している。	△	○	△	年2回、職員と利用者で避難訓練を行っている。地域との協力・支援体制の確保に向けた取り組みについては、このような時期でもできることはないか、運営推進会議なども活かして話し合ってみてはどうか。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	消防の方に参加してもらったり、町内の方に参加して頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	研修に参加したり、リモート研修を行って、日々認知症ケアの実践力を身に付けている。				相談があれば乗るが、さらに、今後は地域に向けて気軽に相談できる場所として認知してもらえるような取り組みをすすめてはどうか。 高校福祉科の実習の場として提供している。介護サービス事業者連絡会に参加して連携している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば支援している。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所での集う場所の解放、活用はできていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	市内の高校生の実習を受け入れたりボランティアの受け入れに協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	各関係機関との連携をとり、地域活動にも参加するように努めている。			○	